

## 岐阜大学トピックス

### 2009.10 ▶ 2010.02

#### 10月

#### 岐阜大学フェア2009を開催

10月30日・31日の2日間、「岐阜大学フェア2009」を開催しました。今回は、企業関係者や学生、一般の市民を対象に、著名人による講演会や本学が取り組んできた地域に密着した教育研究活動を、全5学部・産官学融合本部・連携自治体が紹介し、両日で1,646名の方がご来場くださいました。

1日目には、技術講演会やパネル展示(119件)、研究室見学(29件)、技術説明会(16件)を、2日目には、本学農学部卒業で今年度猿橋賞を受賞された塩見美喜子氏(慶應義塾大学医学部分子生物学准教授)による特別講演やパネル展示、研究室見学、実験教室(11件)を実施しました。

メインのパネル展示会場では、応用生物科学部の福井博一教授が開発に携わったサントリーの「青いバラ」が青いカーネーションとともに特別に展示され、来場者の注目を集めました。また、開催期間中には、本学と包括協定を結んでいる岐阜県高山市による「高山物産展」も開催され、パネル展示会場は多いにぎわいました。



#### 10月

#### 可児郡御嵩町と包括連携協定を締結

10月28日、可児郡御嵩町との間で連携に関する協定を締結しました。この協定は、低炭素社会づくりを推進し、活力ある地域社会の形成・発展および未来を担う人材育成、さらに町民等の教育・文化活動など地域貢献に寄与することを目的としています。

協定締結後、森学長は「環境問題に積極的に取り組んでいる御嵩町にできる限り協力していきたい」、渡辺公夫町長は「住民が参加意識をもった町づくりに、よきアドバイスをいただきたい」とあいさつしました。



今後の取り組みとして、本学の未来型太陽光発電システム研究センターと連携し、気象や発電量予測の情報を住民に提供することなどを予定しています。

#### 11月

#### 構内にコンビニエンスストア(ミニストップ)がオープン

11月18日、岐阜大学にミニストップ岐阜大学店がオープンし、関係者や多数の学生・職員が参加してオープニングセレモニーが開催されました。

このコンビニは、情報モニターの設置や学内無線LAN環境整備など、学生や教職員の福利厚生環境の充実に目的として設置されました。照明にはLEDを採用して環境負荷の軽減に努めており、環境教育・研究に取り組む本学にふさわしい店舗です。

セレモニーでは、森学長から「昼食時の混雑が緩和でき、学生さんの利便性が良くなる。正門近くに設置されたので地域の方にも利用していただくことができる」と期待をこめたあいさつがあり、そのあとテープカットが行われました。

オープンした店内は多くの人でにぎわい、33席あるイートインコーナーを学生たちがさっそく利用し、活気に満ちていました。



#### 11月

#### 岐大キャンパス内に岐阜薬科大学新学舎が完成

本学医学部南側に建設中であった岐阜薬科大学新学舎が完成しました。

平成22年度から、新学舎の7階で本学先端創薬研究センターが、8階で岐阜薬科大学との連合大学院である連合創薬医療情報研究科が使用します。

11月17日、岐阜薬科大学新学舎において、森学長、細江茂光岐阜市長、勝野真吾岐阜薬科大学長との対談が行われました。

対談の中で森学長は連合大学院の必要性について、創薬・医療情報分野の人材育成を挙げ、「本学の隣に岐阜薬科大学が来てくれたことは非常に大きな意味がある。地域社会により一層貢献できる」と話し、勝野学長も「今まで培ってきた実績をさらに発展させることができ

る」と応えました。今後の展望について、森学長は「ライフサイエンスの研究拠点となり、この地域の発展につながる。環境分野についての良いモデル地区となる」と熱く語りました。



#### 12月

#### 日本学生支援機構優秀学生顕彰事業の優秀賞を受賞

日本学生支援機構の平成21年度優秀学生顕彰事業の社会貢献分野で、優秀賞に選ばれた応用生物科学部獣医学課程6年生 奥田順之さんが12月16日、森学長に受賞の報告をしました。

奥田さんは、自ら団体ドリームボックスを設立し犬猫の殺処分問題を社会に発信、啓発するなどの活動が認められ、今回の受賞となりました。

この事業は、同機構が(A)学術、(B)文化・芸術、(C)スポーツ、(D)社会貢献の各分野で優れた業績を挙げた学生を表彰し、それらの活動を奨励・支援する目的で行われている事業です。今年度の応募者数は216名。厳正な審査を経て、大賞14名、優秀賞28名、奨励賞50名が選ばれました。

奥田さんは「殺処分を減らすには、飼い主のモラル向上が大切であり、そのための啓蒙活動を続けていきたい。小中学校や子供会などで、命の大切さを考える話をさせていただく機会を増やしていければ」と今後の抱負を熱く語り、森学長は「ドリームボックスの活動が高い評価を受けたことは、大変喜ばしいことだ。この活動を今後の人生に生かしてほしい」と激励しました。



#### 1月

#### 大学院連合創薬医療情報研究科が理化学研究所と連携協定を締結

大学院連合創薬医療情報研究科は1月12日、独立行政法人理化学研究所との間で連携・協力に関する協定を締結しました。当日行われた調印式では、関係者が見守るなか、同研究科の北出幸夫研究科長、理化学研究所の土肥義治理事が協定書に署名しました。

この協定は、研究科の教育研究活動の一層の充実に図るとともに、相互の研究交流を促進し、その成果を学術および科学技術の発展に資することを目的としています。これにより、体内の分子の動きを可視化する「分子イメージング科学」分野によるイノベーションの創出、国際的に活躍できる人材の育成、人材交流をめざします。

協定締結後、北出研究科長は「大学院の教育研究がますます発展することを期待している」と語りました。



#### 2月

#### 岐阜県多治見市と産学連携に関する協定を締結

2月4日、岐阜県多治見市との間で産学連携に関する協定を締結しました。

この協定は、それぞれが有する人的、物的資源を有効に活用し、産官学連携を通して地域社会に貢献することに合意し、多治見市をはじめとする地域における産業振興と人材育成に寄与することを目的としています。

この協定により、本学では多治見市から職員1名を受け入れます。自治体では経験できない産学連携活動を実践することで、地域産業の発展に寄与する人材を育成します。

協定締結後、森学長は「東濃地域の産業発展につながる人材育成に寄与するため、大学を挙げて産官学でスクラムを組み、取り組んでいきたい」と語り、古川雅典市長からは「自治体が抱えている課題解決に向けて、大学との人的ネットワークをつくり連携したい」とのあいさつがありました。

